

集団の理解— ナカニシヤ出版
速水敏彦・吉田俊和・伊藤康児（編） 2001 生きる力
をつける教育心理学 ナカニシヤ出版
—分担執筆—
中島義明・安藤清志・子安増生・坂野雄二・繁榎算男・

立花政夫・箱田祐司（編集）1999 心理学事典（6
項目） 有斐閣
山岸俊男 2001 社会心理学キーワード（第7章） 有
斐閣

研究状況報告 — 2000年10月～2001年10月 —

岡田 猛

(1) 研究業績

印刷中および発行済み（2000～2001）

編著

- ・植田一博・岡田猛編（2000）。「協同の知を探る：創造的コラボレーションの認知科学」共立出版
- ・K. Crowley, C. D. Schunn, & T. Okada (Eds.) (in press). Designing for Science: Implication from everyday, classroom, and professional settings. Mahwah, NJ: Erlbaum.

論文および著書（分担執筆）

- ・Schunn, C. D., Crowley, K., & Okada, T. (in press). What makes collaborations across a distance succeed?: The case of the cognitive science community. In P. Hinds & S. Kiesler, Distributed work. Cambridge, MA: MIT Press.
- ・Schunn, C. D., Crowley, K., & Okada, T. (in press). Cognitive science: Interdisciplinarity now and then. In S. J. Derry & M. A. Gernsbacher (Eds.), Problems and promises of interdisciplinary collaboration: Perspectives

- from cognitive science. Mahwah, NJ: Erlbaum.
- ・Okada, T. & Shimokido, T. (2001). The role of hypothesis formation in a community of psychology. In K. Crowley, C. D. Schunn, & T. Okada (Eds.) Designing for Science: Implication from everyday, classroom, and professional settings. Mahwah, NJ: Erlbaum.
- ・岡田猛・高城早和子（2001）. 心理学の研究におけるドキュメンタリー的な情報の利用可能性 やまだようこ・サトウタツヤ・南博文（編） カタログ現場心理学：表現の冒険 金子書房
- ・Schunn, C.D., Crowley, K. 岡田猛（2000）. 認知科学：その学際性について 植田一博・岡田猛（編） 協同の知を探る：創造的コラボレーションの認知科学 共立出版

(2) 学会活動

編集委員

Psychologia Society “Psychologia : An international Journal of Psychology in the Orient”

研究状況報告 — 2000年10月～2001年10月 —

中谷 素之

最近1年間の研究経過を以下に示す。この1年は、さまざまな業務の中でようやく自分なりのペースをつかみかけてきた時期であったように思う。当然のことであるが、大学院時代に比べ時間的な制約が厳しいため、限られた時間でいかに効率的に研究や調査を行うかが重要であると考えている。動機づけを研究テーマとしている以

上、自分自身が“動機づけられている”ことが必要だと思うのだが、実際は怪しいものである。今後は“動機づけの維持と自己調整”が自身のテーマかもしれない。

1. 社会的責任目標に関する研究

教室という社会的文脈における学業達成過程に関する